

【新刊紹介】

朝日新聞社編 倉嶋厚監修

お天気ごよみ

河出書房新社刊 B 6 版 本文 276 頁 付表22頁 850円

本書は朝日新聞夕刊社会面に9年間にわたって連載されてきたコラム「週末の天気」と「お天気衛星」から、ひと月20篇づつを選んで再録した異色の歳事記である。

私自身が毎週心待ちにして読んだ記事の再録だが、こうして一冊の本になったものを読むと、国内、海外のバラエティに豊んだ話題が並んでいて、前に読んだ時とは違った新鮮な印象を受ける。おそらく気象学の専門家と自認されている読者でも案外、気付かなかった話題が多いのに驚くのではないだろうか。

ちなみに、8月の部分を列挙してみよう。「せみしぐれ、海辺の気象観測、箱根の私雨、世界の熱帯低気圧、流れ星、山鹿素行と台風、台風の上陸率、暑さと立秋、雷雨の鼻、緑陰の涼しさ、日射低気圧、台風の風の吹き方、台風の降雨帯、処暑、植物季節の折り返し点、暑さ

の疲れ、初霜ラインのスタート、ニジの見える回数、コオロギ温度計、砂の歌」がその表題である。一つの話題には気のきいた図か写真を添えて、一頁に収められているが、限られたスペースの中で、うまくつぼを押さえて内容が適確に表現されている点や、付図の表現や文章のうまさは、さすが朝日新聞社社会部の腕ききの記者が書いただけのことはある。

各月のはじめにはその月の代表的な天気図の見方が掲載されているし、巻末には各月のお天気打率として、全国7地点の毎日の晴雨率の表がついている。それこそ寝ころがって読むによし、研究の合間の気分転換によし、学校の教材によしで、読後感のさわやかな肩のこらない良書である。

(河村 武)

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第7回夏期大学「新しい気象学」教室	昭和48年7月30日～8月2日	気象学会	気象庁講堂
国際地球電磁気学会・超高層物理学協会1973年学術総会	〃 9月9日～21日	日本学術会議	京都国際会議場
Nucleation Symposium	〃 9月23日～29日	国際雲物理委員会	ソ連 (Leningrad)
International Conference on Weather Modification	〃 10月1日～7日	WMO	ソ連 (Tashkent)
第10回自然災害科学総合シンポジウム	〃 10月13日～14日		九州大学工学部 (福岡市)
秋季大会	〃 10月29日～31日	気象学会	仙台市
第20回風に関するシンポジウム	〃 11月28日	気象学会他共催	気象庁講堂
北海道支部研究発表会	〃 11月29日	北海道支部	札幌管区气象台
第2回「瀬戸内海・の海陸風に関するシンポジウム」	〃 11月末～12月上旬	関西支部	広島市